

た。この記事を見ると技能実習生制度が農業や漁業が中心の様に感じられますが、JITCOの資料で2年目に移行した分野別人数を見ると農業と漁業を合わせて7482人(13.9%)であり特別多くの技能実習生を受け入れている職種とは言えません。こうした表現が取られた背景には、これまで発生した技能実習生による3件の殺人事件が全てこの分野に関係していたためと考えられます。2006年の養豚業(千葉県)、2009年の農業(熊本県)そして2013年のカキ養殖業(広島県)の3件です。労働者にとっては大変な職場だといえますし、労働基準法上は適用除外(注1)とされている業種です。分野別の技能実習生の人数はみると次のようになっています。

(2012年2号移行人員数 JITCO)

分野	人数	構成比	分野	人数	構成比
農業	6,888	12.8%	繊維・衣服	11,437	21.3%
漁業	594	1.1%	機会・金属	11,775	21.9%
建設	4,595	8.5%	その他	11,459	21.3%
食料品製造	7,043	13.1%	合計	53,791	100.0%

漁業の分野を細かくみると漁船漁業352人で養殖業242人です。漁業の受入県のトップは広島県の230人で、2位が宮崎県の84人です。広島県の230人は全てカキ養殖と推測してもいいのではないのでしょうか。

また、監理団体としての漁協や農協が受け入れた割合を、2009年の2年目への移行数で見ると、農協が2.9%で、漁協についてはよく分かりませんが、大多数の技能実習生(82.3%)は協同組合経由となっています。

新しい指針を見ると管理団体の監視の視点として、次の、(a)~(c)とまたそれぞれについての具体的な手順と方法が追加されています。

(a)技能実習計画の実施状況

技能実習計画に従った技能実習が実施されているかどうか、書類又作業場に立入って実際に技能実習の実施状況について確認を行う必要があるとされています。また、指導を行うものが5年以上の実務経験を必要とされているためこの確認も義務付けています。

(b)技能実習生の生活環境への配慮

「生活指導員の指導の適否だけでなく、技能実習生が生活指導員との間で、日常生活での不安や不便、ホームシック等について、どのようにコミュニケーションを取っているか、また、相談に対する具体的な対応の仕方について、技能実習生に直接確認し適切かどうか見ることが必要」とされ、初めて受け入れた機関また技能実習生が一人だけの場合への配慮についても触れられています。

(c)不正行為の有無

- ① 技能実習生に対して、パスポート等の保管や携帯の所持また来客との面接の禁止がされていないか等を確認する必要があること。
- ② 労働関係法令の遵守として具体的な項目が別項にまとめて掲載されました。
- ③ 保証金については、「入国後の講習において、技能実習生に保証金の違法性を十分に説明したうえで、監査の際に実際に保証金の徴収がなかったかどうかについて、通訳等を介して技能実習生に直接確認し、その内容を記録にとどめる必要があります。」とされています。
- ④ 名義貸しが行なわれていないかどうかの確認のため、技能実習生の人数の過不足のチェックが必要とされています。
- ⑤ 従業員のタイムカードなどの確認を通して不法就労者がいないかどうか確認する必要があるとされています。

(注1) 労基法第41条適用除外では、1日8時間1週40時間の規制や週1回の休日の付与また割増賃金の支払いが不要とされています。基本的に技能実習生については漁船に乗り込む職種以外では適用除外は認められていないと考えられます。適用除外と抗弁された時には、労働契約書にどのように記載されているか確認する必要があります。

ケラメイコス

常滑の山盃

あっという間に平成 25 年が過ぎ去り、神様から少し早めのクリスマスプレゼントを贈っていただいたことぐらいのことで何をやったのかと考えても特別思い出すこともなく、ただやりたいことが何も出来なかっただけの一年といえました。ただ趣味の世界では長年の思いがかなった



こともありました。この一年が押し詰まった 30 日に小さな常滑の山盃が届いたのもそのうちの一つでした。常滑の山盃はかねがねいいものが欲しいと探していても今一つ本気にならないところがあり手に入らないままでした。この山盃は編笠風に歪んでおり形としては今一つですが、窯詰する時、山盃を積み重ねたものの一番上に置かれた「山盃の天」と呼ばれるもので全面に灰がかかっています。欲を言えばきりが無い話で、この辺りのものであれば十分ではないかと思っています。ちなみに 2 段目以降は右のもののように真ん中の部分だけに灰が吸らず



地肌がむき出しとなってしまう盃としては今一つといえます。当然、茶碗サイズのものもありますが、なかなか「天」に置かれたもので緑色の発色をしたものは少なく、出てきても手が届かないため山盃の緑色に発色したものを気長に待ちたいと思っています。ただ、発掘品の場合の難点として、土臭の問題があります。発掘



したままで使用されていないものは土臭を取るのに手間取りますが、今回のものは使われてきていたようで、多少の土臭がありましたが一晩処理しただけで消え去り、使用可能の状態となりました。中には中々取れないものもあります。左の弥生式土器盃は岡崎市の矢作川遺跡出土と聞いていますが、土臭がなかなか取れず、使用するのも怖いところがあるためそのままにしています。磁器の場合はそうした心配がないので問題はありませんが、低下度焼成されたものは土臭が抜けにくいのかもかもしれません。



去年は、以前紹介した初期伊万里の盃も手に入りました。初期伊万里は磁器が初めて焼かれた頃の作品であり、盛大に生産がおこなわれた時代のものとは違った良さがあります。安定した窯出しが出来るように頑張っている時代で、当然、形にしても描かれる絵柄にしても盛期のものと比較してプリミティブなものとなってしまいます。嫌みのない良さと言うものが感じられます。弥生式土器盃にしても常滑のものにしても同様です。



今、勾玉と土偶が欲しいと思いながら眺めているだけですが、それらを見ていると生き生きとした力強さを感じさせられます。特に、中空土偶や遮光器土偶の持つ、張り裂けんばかりのふくらみ、膨張力に惹きつけられています。縄文土器に強く関心を持った岡本太郎が「芸術は爆発だ」と言ったのも現代にも通用する造形力をもった縄文土器や土偶また土偶の内から漲る膨満感やにあったのかもかもしれません。プリミティブだからできる話でもなく、自然に対する素直な絶対的な畏敬の念から出てくるものではないかと思えます。常滑は大量生産するための無作為の中から、初期伊万里は新しい時代を切り開くための強い思いの表れとして、勾玉や土偶に見られる何かに対する強い思いを意識して生きることが必要だと痛感させられます。新しい一年に向かって、これら古い時代の息吹を感じて、今一度原点に立ち帰って全てのことを見直してみたいと思っています。

平成25年12月

各位 殿

テニスサークル・アレオパゴス会議
小松公寛

第24回アップダウンテニス大会〔開催のご案内〕

寒冷の候、皆様方にはますますご健勝のこととお慶びいたします。
さて、標記大会を本年度は下記のとおり開催することとなりましたのでご案内いたします。

記

1. **主 催** 広島県車椅子テニス協会、テニスサークル・アレオパゴス会議
2. **日 時** 平成26年 3月 9日(日) 午前9時～午後5時
3. **場 所** 広島広域公園テニスコート 全天候型8面 (内インドア4面)
4. **参加資格** 車いすテニスと健常者のテニスとの垣根を取り払い、同じテニスコートでテニスを楽しむことに関心のある方。
5. **種 目** ①4チームによる団体戦(ダブルスのみ)
 - ・チーム編成については主催者側で決定させていただきます。
 - ・各対戦毎のペアは各チームで決めていただきます。
 - ・ただし、同一ペアは大会を通じて1回のみとします。
6. **試合方法** リーグ戦方式とします。
7. **参加費用** 1人 1,500円(弁当代を含みます)
※ 参加費用は、各団体で徴収の上当日受付でお支払いをお願いします。
8. **申込期日** 平成25年 2月 9日(日)
申込方法 別添様式による。(HPからダウンロードできます。)
<http://srk2002.com/>
10. **ドロ-送付** 平成25年 3月 1日(土) (予定) までに代表者に送付します。
ただし、発送後の変更の可能性があります。

以 上

申 込 先

〒733-0002

広島市南区西本浦町14-11-511

小松社会保険労務士事務所

小松公寛 携帯 090-7590-0215

e-mail k.komatsu@do.enjoy.ne.jp

HP : <http://srk2002.com/>

本の紹介

人類が絶滅する6つのシナリオ
河出書房新社 フレッド・グテル著 2200円

ある植物が一か所に異常繁殖すると絶滅してデッドスポットが出来るという話を讀んだ時から人類の絶滅と言う言葉には強い関心を持ってきました。人類が爆発的に増加して行けば当然地球環境との調和が崩れてしまいますし、食糧確保のための領土争いが激化し、世界を支配しようとする動きが出てくることとなります。同時に、社会生活をより豊かにするための資源確保も当然激化します。一方では国境を越えて社会を統制制御するコンピュータ・システムも強化されていきます。またウィルスの合成を始め、臓器移植・生殖医療といった生命の操作の精度も高まってきました。生命操作の結果は数世代後にしか出ません。人類の進歩はこれからどのような結果を招くのか予断を許さない状況にあるといえます。

著者は、地球の歴史で5回は大量絶滅があったと言っています。最も新しいのが6500万年前の隕石落下による恐竜絶滅です。こうした外部的要因による絶滅もあれば周期的な気候変動によるものもあり、生態系の変化により、また科学の進歩により引き起こされる大量絶滅もあります。著者は、(1)世界を滅ぼすスーパーウィルス、(2)繰り返される大量絶滅、(3)突然起こり得る気候変動、(4)生態系の危うい均衡、(5)迫りくるバイオテロリズム、(6)暴走するコンピュータ、の6章で絶滅へのシナリオを描いています。人類が滅亡したはるか後の時代のシナリオもあるでしょうが、明日にでも、同時に発生してもおかしくないシナリオもあります。一番の脅威は(6)のコンピュータの問題かもしれません。ここではスタックスネットと呼ばれるコンピュータ・ウィルスが紹介されています。シーメンス社製のコントローラチップスに対してだけ反応するウィルスでイランの核施設に大きな被害をもたらしたことが報告されています。今の社会はコンピュータ・システムを抜きにしては成り立ちません。国家機関、軍事機関また社会生活基盤である交通管理システムや電力供給システムなどへのコンピュータ・ウィルスによる攻撃や誤作動が思わぬ結果を招きかねません。こうしたものに対して国家やテロ組織によるまた面白半分の素人によるサイバー攻撃で最悪の事態が発生するというのが最も恐ろしいシナリオかもしれません。こうしたシナリオを前にすると平家物語の冒頭の一節が思い出されます。

言葉

「祇園精舎の鐘の声、諸行無常の響きあり。沙羅双樹の花の色、盛者必衰の理をあらはす。おごれる人も久しからず、ただ春の夜の夢のごとし。たけき者も遂にはほろびぬ、ひとへに風の前の塵に同じ。」

平家物語

発行所

医事業務支援センター・小松社会保険労務士事務所
フィリピン人労働者を支援する会
〒734-0045 広島市南区西本浦町 14-11-511
携帯 090-7590-0215 Tel・Fax 082-285-9039
e-mail k.komatsu@do.enjoy.ne.jp <http://srk2002.com/>

平成26年 1月 1日 発行